

研修会報告

令和7年6月20日

文責：佐々木克幸

研修会名 : 生物化学分析部門研修会
テーマ : 「自施設で行う試薬検討のいろは（これで試薬検討は怖くない）」
開催日時 : 令和7年6月14日(土) 14:00 ~ 16:20
会場 : 東北大学医学部保健学科 A 棟 1 階大講義室
司会 : 佐々木克幸
生涯教育点数 : 基礎教科 20 点
参加者 : 会員参加者 27 名 賛助会員 9 名 非会員 1 名
合計 37 名

【プログラム】

基調講演

「自施設で試薬検討をやってみよう（バリデーションソフトの活用法）」

講師：東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門 木原純子 技師

特別講演

「試薬検討で用いられる統計学的意味と使い分け

（直線性と相関分析の統計学的評価方法の意義と使い方と中心に）」

講師：東北大学大学院理学研究科 数学専攻 准教授 岩渕司 先生

【内容】

「自施設で行う試薬検討のいろは（これで試薬検討は怖くない）」と題し研修会を企画した。試薬導入や評価を行う際、試薬検討を求められるが、検討準備や手順を確認するだけで敷居が高いと感じてしまう場合が多々存在する。今回は日本臨床化学会より提供される自動計算エクセルソフトの使用方法をわかりやすく解説し、自施設で試薬検討ができる知識や方法を習得することを目的とした。

基調講演では東北大学病院の木原純子技師から、バリデーションの意義や各検討項目の実施方法について、事例を交えて講演いただいた。特異性・選択性評価の試料調製や希釈系列の調製方法など、本講演を聞くことで自施設でもすぐに検討に取り組むことが出来ると感じられる内容であった。これから検討を考えている参加者にとって、有益な情報が盛り込まれた非常に参考となる講演であった。

特別講演では東北大学大学院理学系研究科数学専攻の岩渕司先生から、バリデーションの項目で統計処理が行われている直線性と相関性にフォーカスを絞り、エクセルソフトで行われている統計処理について、その意義と使い方を講演いただいた。前半は統計処理で用いられる正規分布と分散の基本的な考え方を、後半はソフトで用いられる直線性と相関性の解説という構成で講演が行われた。実際の測定で得られたデータがどのような計算で処

理されているか、そしてエクセルで自動計算された結果を適切に扱うためのポイントを理解することが出来た講演であった。

今回の研修会を通して、自施設でも試薬検討を実施してみたいと感じてもらえれば幸いである。